

2022 年 8 月 26 日

The Emerging Markets Weekly

FRB タカ派化懸念が燦るなか、中国の追加景気対策は救いに

新興国市場：前週末 19 日、前日の FRB 高官らによる相次ぐタカ派的な発言に、新興国通貨は続落。KRW や CNY は年初来安値を更新した。欧米時間も新興国通貨は軟調に推移。バーキン・リッチモンド連銀総裁のタカ派発言もあり、リスクオフムードが続いた。ZAR の下げが目立った。週初 22 日、アジア時間の新興国通貨は先週末の流れを引き継ぎ続落。THB や KRW は前日比▲1.0%超下げた。欧米時間の新興国通貨はまちまち。週末のジャクソンホール会合を控えて、欧州におけるエネルギー供給懸念の高まりは間が悪く、欧米株が大きく下落。EUR のパリティ割れに東欧通貨は値を下げた。また、追加金融緩和を手掛かりに弱含んでいた CNY も下落幅を拡大した。他方、BRL や TRY 等に小幅反発の動きが見られた。23 日、アジア時間の新興国通貨は大半が小幅続落。前日からの FRB タカ派化警戒感が重しとなった。IDR は予想外の利上げが発表された後、急速な上昇に転じた。欧米時間の新興国通貨は総じて反発。8 月 PMI を始め米経済指標が軒並み市場予想を下回り、上述の警戒感が和らいだ。商品市況の持ち直しも追い風に、南米通貨が堅調で BRL は前日比+1.0%上昇。CNY はアジア時間の下げを埋め、4 日ぶり反発となった。24 日の新興国通貨はまちまち。目新しい材料がないなか、ジャクソンホール会合を控えて市場には様子見ムードが広がった。MXN や ZAR が堅調だったほか、当局の口先介入も手掛かりに KRW は 7 日ぶりに反発。片や、金利低下圧力がみられる CNY は反落、4 日連続で年初来安値を更新した。25 日、新興国通貨は大半が底堅く推移。ジャクソンホール会合を控えて警戒感は燦るものの、中国における追加景気対策の動きが好感された。アジア時間では、追加利上げも重なった KRW の上昇が目立った。欧米時間では米長期金利の低下に米株が小幅反発。資源国通貨を中心に強含み、ZAR は前日比+1.1%上昇した。

アジア：中国人民銀行(PBoC)が22日に公表した8月最優遇貸出金利(LPR)は、1 年物が 3.70%から 3.65%へ、5 年物も 4.45%から 4.30%へと低下した。23 日発表のシンガポール 7 月消費者物価指数(CPI)は前年比+7.0%と前月(同+6.7%)から加速、2008 年 6 月以来の高い伸びとなった。インドネシア中央銀行(BI)は 23 日、政策金利を 25bp 引き上げて 3.75%にすると決定した。利上げは 2018 年 11 月以来。インフレ高進に対応するとともに、IDR の相場安定を図る。韓国銀行(BOK)は 25 日、政策金利を 25bp 引き上げて 2.50%にすると決定。利上げは 4 会合連続も、利上げ幅は前回の 50bp から縮小した。中国国営テレビの 24 日の報道によれば、中国政府は 1 兆元規模の追加景気対策を既に準備、インフラ事業や電力不足対応等を支援する模様。

中東欧・アフリカ：ロシアの国営天然ガス企業は 19 日、「ノルドストリーム」を通じた欧州への天然ガス供給を 3 日間(8 月 31 日～9 月 2 日)停止すると発表した。これを受けて天然ガス価格が急騰した。24 日発表の南アフリカ 7 月 CPI は前年比+7.8%と前月(同+7.4%)から加速、2009 年 5 月以来の水準となった。

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀内 隆文

03-3242-7065

takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(フィリピン)

8 月金融政策会合～インフレ抑制の観点から利上げを継続～

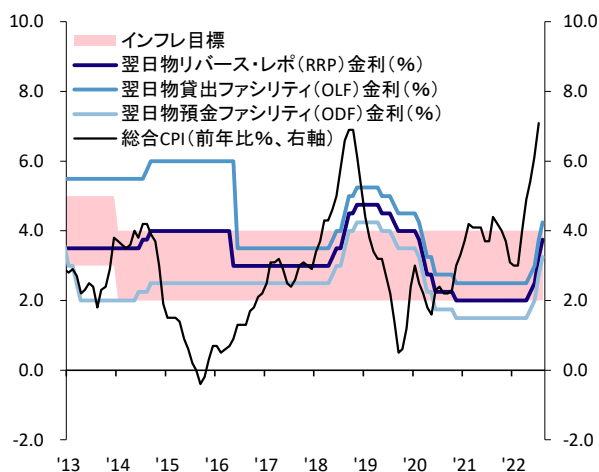
市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は18日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを従来の3.25%から3.75%へ引き上げた(図表1)。7月の臨時会合に続き4会合連続での利上げとなり、利上げ幅は前回の75bpsから50bpsへ縮小した。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも引き上げそれぞれ4.25%と3.25%とした。なお、ブルームバーグの事前予想では50bpsの利上げの予想が有力であった。

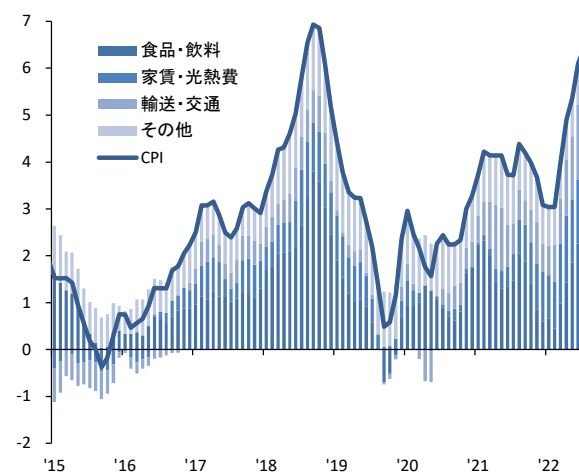
声明文では、引き続きインフレに対する強い警戒が示された。7月消費者物価指数(CPI)は前年比+6.4%と6月の同+6.1%から加速(図表2)、18年10月以来の高水準を記録した。食料品価格と燃料価格の騰勢が目立つが、多岐にわたり物価上昇が確認されている。BSPは二次的なインフレリスクとインフレ期待の高まりを受けて6月会合に続きインフレ予想を引き上げることを発表した。22年については、前年比+5.0%から同+5.4%へ、23年、24年の物価上昇率についてはそれぞれ前年比+4.0%(従来比+0.2%ポイント)、+3.2%(同+0.1%ポイント)に上方修正された。長らくインフレの主因であった原油価格の高騰は直近数か月で落ち着きを見せつつあり(図表3)、昨年からのベース効果も徐々に弱まってくると予想される中、今後食料品価格、燃料価格以外の動向が利上げペースを左右する可能性がある。

また、本会合に先行して4～6月期GDPが公表されており、結果は前年同期比+7.4%と1～3月期の同+8.2%から減速し、前期比で見ると▲0.1%と僅かに悪化した(図表4)。インフレの高進や国内金利上昇が消費活動の足を引っ張ったと見られるほか、寄与度別で見れば外需部門の純輸出のマイナスが目立っており、これは資源価格(特に原油)の高止まりによる輸入規模の拡大に起因すると考えられる。この結果につきBSPは依然として金融引き締めによる需要及び雇用面での悪化の兆候は確認されていないとして、今後更なる金融政策の正常化に対応可能であるとの見解を示した。

以上、BSPは引き続きインフレ抑制を最優先する方針を示しており、メダラBSP総裁も会見でインフレ期待を安定させ、インフレを目標レンジ内に抑えるためには一段と正常化措置をとる必要があると述べ、今後一段の金融引き締めを示唆した。今年既に175bpsの利上げに踏み込んでおり、ASEAN地域の中でも特にタカ派傾斜が強まっている状況となっている。こうした背景には、為替安定を目指す側面もあるのだろう。PHPは対ドルで上値の重い推移が続く(図表3)。フィリピンをはじめASEAN諸国も米国に追随した利上げに踏み込むが、米国の金融政策動向が相場にもたらす影響はより大きく、FRBのタカ派路線の修正が無くして相場トレンドの転換は難しそうだ。この他、原油価格のピークアウトはPHPの反発材料となるが、大きく値を戻すことにはならないと考えたい。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標


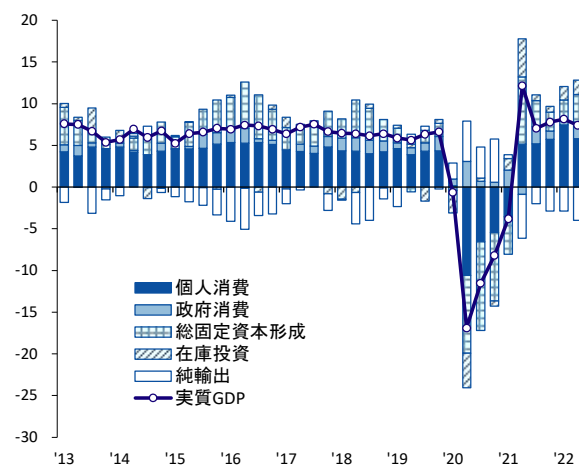
出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価上昇率の推移(前年比%、%ポイント)


出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 原油価格と PHP の動向


出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 4: 実質 GDP 成長率の推移(前年比%、%ポイント)


出所: CEIC、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

8 月金融政策会合～18 年 11 月以来の利上げを実施

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は 22～23 日に開催した金融政策会合で、政策金利の 7 日物リバースレポレートを従来の 3.50%から 3.75%に引き上げた(図表 1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も同じ幅だけ引き上げてそれぞれ 4.50%、3.00%とした。利上げは 18 年 11 月以来の決定となり、足許のインフレ動向と今後のインフレ期待の高まりに対する対応と見られる。なお、ブルームバーグの事前予想では現状維持が優勢であった。

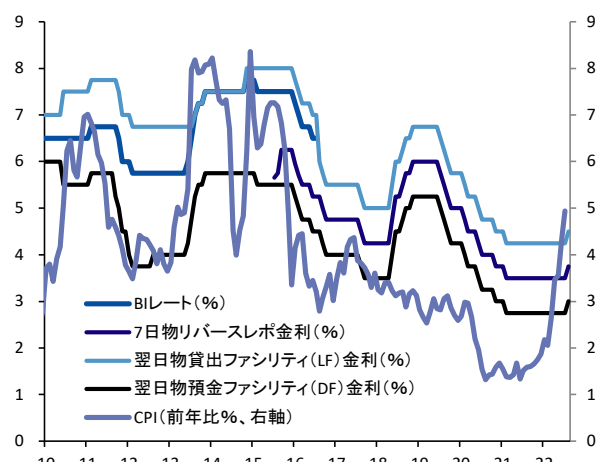
声明文ではインフレ高進や米国、中国の景気後退に伴って世界経済の減速懸念が燦々している点に言及した。その一方で、国内経済については個人消費を中心に堅調な回復が確認されていると総括した。上旬に公表された 4～6 月期 GDP は前年同期比+5.4%と市場予想を上回る結果となっており(図表 2)、業種別では食品・飲料、鉱業、建設業、運輸・倉庫業の回復が目立った。こうした状況を受けて、BI は 22 年の成長率見通しを予想レンジである前年比+4.5～+5.3%の上限付近となるとの見方を示し、過去の会合からやや先行き期待を引き上げた。とは言っても、4～6 月期 GDP の寄与度をみると資源価格の高止まりによる純輸出の占める部分も相応にあり、外需部門が減速する可能性があることには留意したい。

消費者物価指数(CPI)は直近において BI の定める目標レンジ(+2.0%～4.0%)の上限を 2 か月連続で上振れた(図表 3)。7 月 CPI は前年比+4.9%と 15 年 9 月以来の水準まで上昇した。内訳を見ると食料品価格が同+11.5%の上昇を記録したほか、エネルギー関連の項目でも物価上昇が確認されている。なお、コア CPI は同+2.9%と 3%に近づきつつあるが、直近数か月の水準からは大きく変わりなく上昇ペースは比較的落ち着いている。なお、ペリーBI 総裁は 22 年の物価上昇率が 5%前半に達するとの見通しを示している。内需部門の堅調な経済回復に伴う需要面でのインフレ懸念のほか、政府は財政の立て直しを目指す上で、燃料に対する補助金を削減する意向も示しているため、今後のインフレ期待は高まっており、この点も利上げの材料となったと考えられる。

BI の政策指針は景気支援からインフレ抑制にシフトしたものと見られる。追加利上げの有無については明言しなかったものの、インフレ動向次第ではその可能性は十分と考えられる。また、前回会合に次いで BI は為替の安定に注力していく姿勢を見せており、今回の利上げはその一環であると推測される。

直近の IDR 相場を見ると国内要因よりも、世界(特に米国)のインフレや景気動向及び中央銀行の動向に振られている印象が強い。かかる状況下、リスク心理の悪化によって新興国通貨は積極的に買われる地合いにはなりにくく、これは概ね IDR 相場の動向と一致する(図表 4)。引き続き、短期的な相場動向を展望する上ではむしろドル側の要因が材料となる見込みが強いと見られ、ジャクソンホール経済シンポジウムでの FRB の動向には注意しておきたい。PMI をはじめ軟調な経済指標も複数確認される一方、FRB 関係者のタカ派な発言が見られている。年末にかけての金融政策のコンセンサスが市場では取れていない状況下、FRB による予想外の情報発信があった場合には市場が不安定となる可能性に注意を払いたい。

図表 1: 政策金利と消費者物価の推移



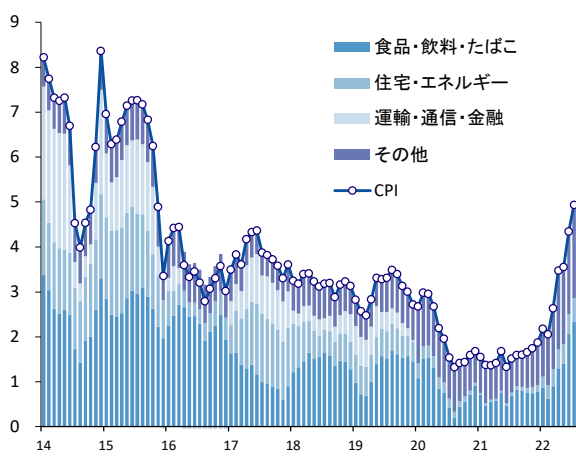
出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP の推移（前年比%、%ポイント）



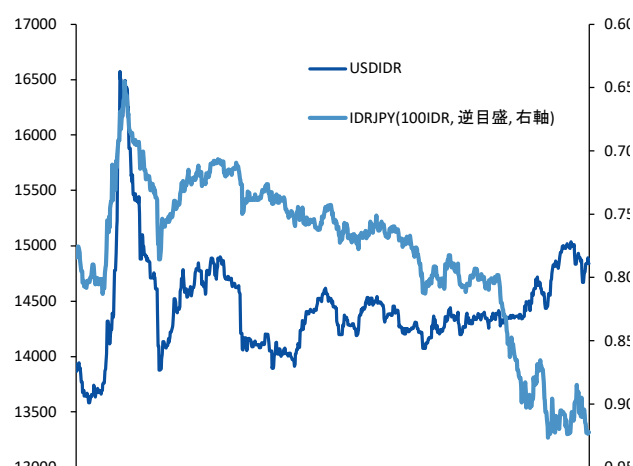
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価の動向（前年比%、%ポイント）



出所: インドネシア中央統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 4: IDR 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(新興国)

2022 年 7 月のファンドフロー

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀内 隆文
03-3242-7065
takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜
03-3242-7065
yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

2022 年 7 月の新興国ファンドへの資金フローは、▲7.7 億ドルと 3 か月連続の資金流出となった。株式ファンドが▲1.2 億ドルと 3 か月連続で流出。債券ファンドは▲76.2 億ドルと 11 か月連続の流出となった。もっとも、いずれのファンドも流出額自体は縮小傾向にある。

地域別ファンドへの資金フローでは、アジア(日本除く)が 3 か月ぶりの資金流入となった。株式への流入額が縮小も、債券からの資金流出が縮小した。東欧・中東・アフリカは 3 か月連続の資金流出、流出額も拡大した。債券からの流出額は縮小も、株式からの流出額が大きく拡大した。ラテンアメリカは大幅な資金流出となり、年初来ベースでも資金流出超となった。債券からの流出額は縮小も、株式が 2020 年 5 月以来となる大幅な資金流出に転じた。

国別ファンドへの資金フローでは、ブラジルからの流出が目立った。債券からの流出額は縮小も、株式が流出に転じた。また、韓国は 4 か月ぶりの資金流出。債券が 5 か月ぶりの流出となったほか、株式への流入額は大きく縮小した。タイは 7 か月連続の流出超。流出額自体は縮小も、株式と債券いずれも流出が続く。一方、フィリピンは株式が寄与する格好で資金流入となった。また、インドも 3 か月ぶりの資金流入。債券が 3 か月ぶりに流入超となった。中国は前月に続き資金が流入。ただ、債券の資金流出は 6 か月連続となった。

なお、8 月 17 日までのデータを基に 8 月に入っの資金フローを試算したところ、新興国ファンドの資金フローは 4 か月連続の流出超となっている。債券は 12 か月ぶりの流入超、株式は 4 か月連続の流出超。金額ベースではいずれもデータで遡れる 1996 年以降で最大と、7 月前半と似た状況となっている。

(注) 各国別のグラフは、8 月 22 日付の通貨ニュースでご確認いただけます。

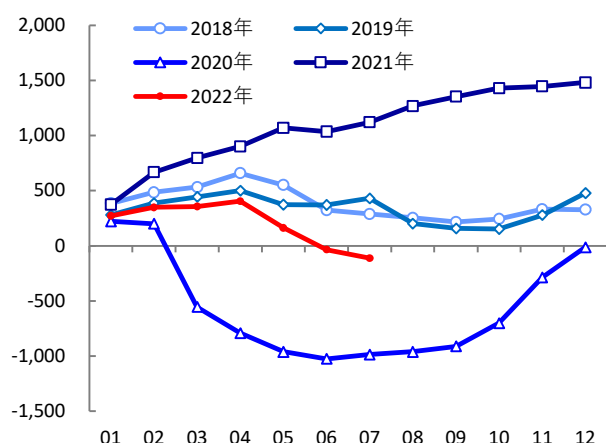
図表 1: 新興国各国・地域のファンドフロー(月次)

	7月 (%)	zスコア (過去5年)		7月 (%)	zスコア (過去5年)
新興国	-0.30	-0.6	インドネシア	-7.05	-2.4
アジア(日本除く)	0.16	-0.1	インド	0.45	0.3
中国	1.09	0.0	東欧・中東・アフリカ	-1.42	-1.0
韓国	-1.60	-0.6	ロシア	-1.22	-0.4
台湾	0.54	-0.1	トルコ	1.81	0.3
シンガポール	0.52	0.0	南アフリカ	0.09	-0.3
フィリピン	2.77	0.7	ラテンアメリカ	-2.52	-1.8
タイ	-0.81	-0.2	メキシコ	0.01	-0.3
マレーシア	-0.19	0.1	ブラジル	-3.42	-1.3

注: スコアは株式ファンドと債券ファンドへの資金流入額の前月比変化率で算出。

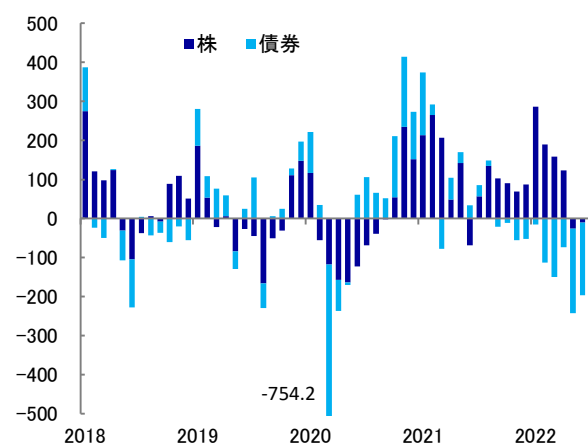
出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 2:新興国(年初来累計額、億ドル)



出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 3:新興国(月次、億ドル)



出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

図表 4: 新興国各国・地域別ファンドフローのヒートマップ

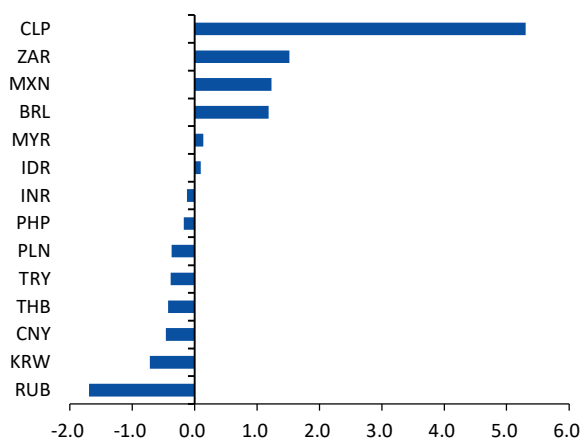
[illegible]

注：過去5年のデータを基に算出したZスコアを用いて作成。赤は資金流出、緑は資金流入を表す。色が濃いほど平均値からの乖離が大きい。

出所:EPFR、Macrobond、みずほ銀行

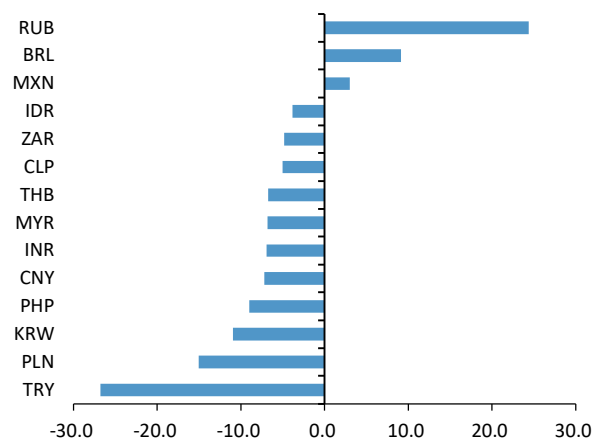
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



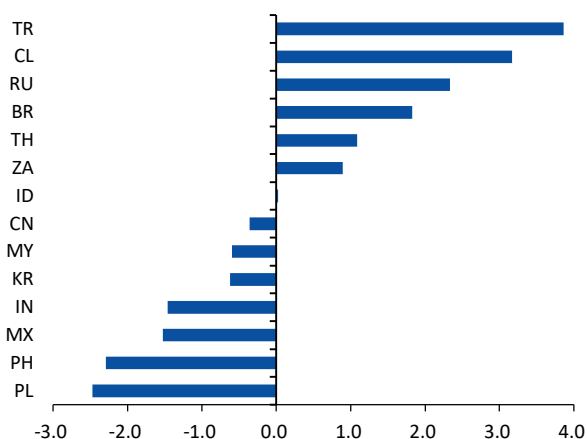
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



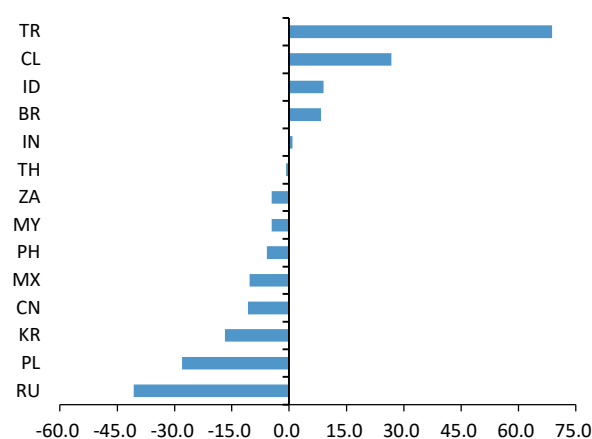
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



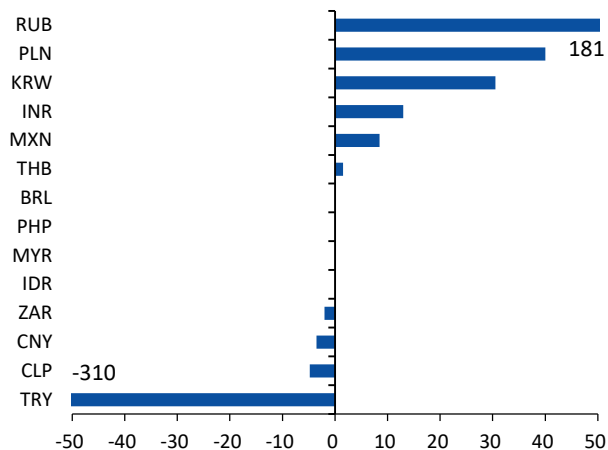
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

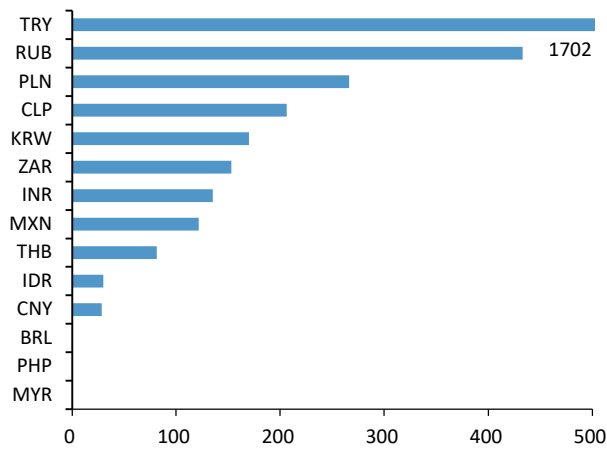
5 年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

5 年物スワップレート年初来変化(bp)

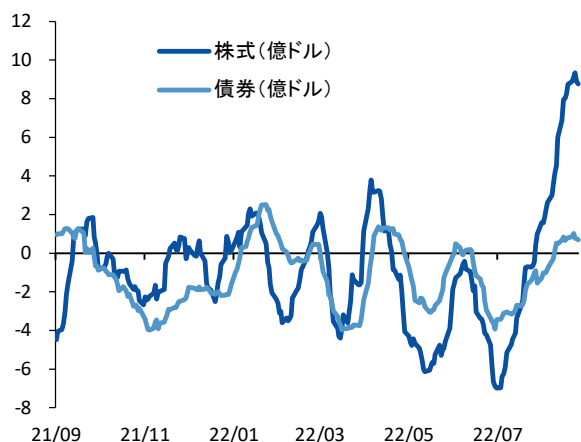


注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーク、みずほ銀行

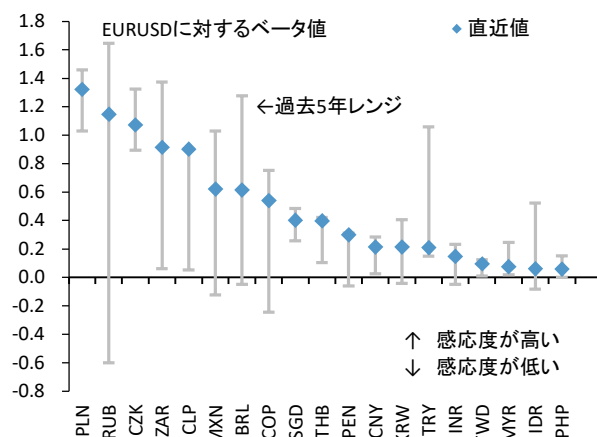
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



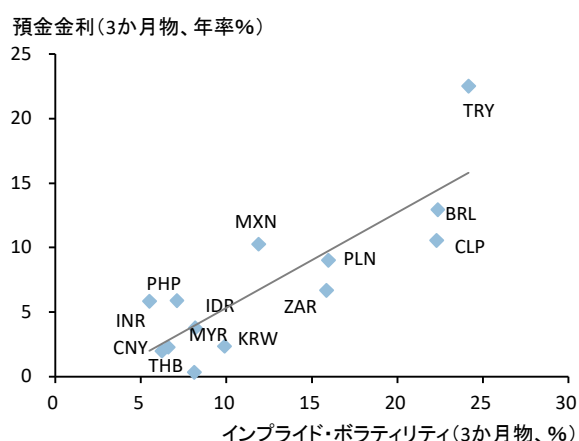
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



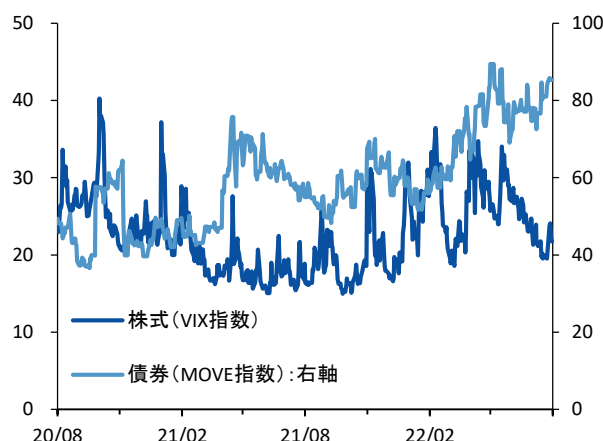
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



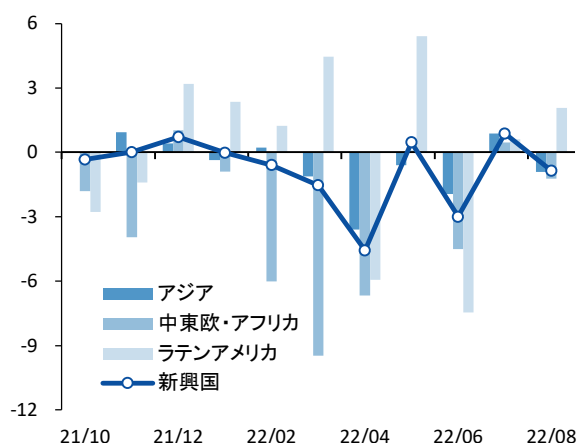
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



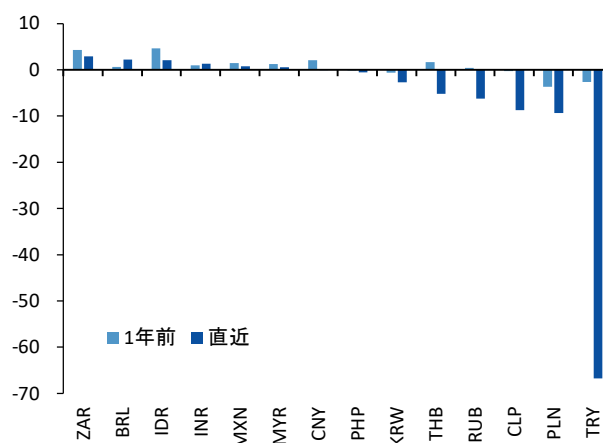
出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所: ブルームバーク、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
8月22日 (月)	台湾	輸出受注(前年比)	5.5%	-1.9%	9.5%	--
23日 (火)	韓国	消費者信頼感	--	88.8	86.0	--
23日 (火)	シンガポール	CPI(前年比)	7.0%	7.0%	6.7%	--
23日 (火)	台湾	鉱工業生産(前年比)	1.2%	1.1%	0.7%	--
23日 (火)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リハースレホ ^o	3.50%	3.75%	3.50%	--
24日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	82	78	--
24日 (水)	韓国	景況判断(非製造業)	--	82	80	--
24-29日	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$1556m	--	-\$1529m	--
25日 (木)	韓国	PPI 前年比	--	9.2%	9.9%	--
25日 (木)	韓国	韓国銀行7日間レホレート	2.50%	2.50%	2.25%	--
26日 (金)	マレーシア	CPI(前年比)	4.4%	--	3.4%	--
26日 (金)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	6.7%	--	2.2%	--
27日 (土)	中国	工業企業利益(前年比)	--	--	0.8%	--
31日 (水)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	1.4%	--
31日 (水)	中国	製造業PMI	49.8	--	49.0	--
31日 (水)	中国	非製造業PMI	--	--	53.8	--
31日 (水)	タイ	国際収支・経常収支	--	--	-\$1873m	--
31日 (水)	タイ	貿易収支	--	--	\$2059m	--
9月1日 (木)	韓国	GDP(前年比)	--	--	2.9%	--
1日 (木)	韓国	貿易収支	--	--	-\$4670m	-\$4805m
1日 (木)	中国	Caixin中国製造業PMI	--	--	50.4	--
1日 (木)	インドネシア	CPI(前年比)	--	--	4.9%	--
2日 (金)	韓国	CPI(前年比)	--	--	6.3%	--
中東欧・アフリカ						
8月24日 (水)	南ア	CPI(前年比)	7.8%	7.8%	7.4%	--
24日 (水)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	-2.3%	-0.5%	-1.8%	--
25日 (木)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	102.1	103.7	--
25日 (木)	トルコ	設備稼働率	--	76.7%	78.2%	--
25日 (木)	南ア	PPI 前年比	17.6%	18.0%	16.2%	--
29日 (月)	トルコ	貿易収支	--	--	-8.17b	--
31日 (水)	トルコ	GDP(前年比)	--	--	7.3%	--
31日 (水)	南ア	貿易収支(ラント)	30.0b	--	24.2b	--
31日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	-9.6%	--
ラテンアメリカ						
8月24日 (水)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	-0.8%	-0.7%	0.1%	--
25日 (木)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	2.0%	2.0%	2.1%	--
25日 (木)	メキシコ	経済活動IGAE(前年比)	2.0%	1.6%	2.1%	--
26日 (金)	メキシコ	貿易収支	-4985.0m	--	-3957.2m	--
26日 (金)	ブラジル	経常収支	-\$1896m	--	-\$2764m	--
29日 (月)	ブラジル	融資残高	--	--	4816b	--
30日 (火)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	--	--	10.1%	--
31日 (水)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	58.8%	--
9月1日 (木)	ブラジル	GDP(前年比)	--	--	1.7%	--
2日 (金)	ブラジル	貿易収支(月次)	--	--	\$5444m	\$5438m
2日 (金)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	-0.5%	--

注: 2022 年 8 月 26 日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

		2022年 1～7月（実績）	SPOT	2022年 9月	12月	2023年 3月	6月	9月
対ドル								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	6.3065 ～ 6.8125	6.8492	6.75	6.75	6.78	6.80	6.80
香港ドル	(HKD)	7.7825 ～ 7.8500	7.8466	7.85	7.85	7.84	7.83	7.82
インドルピー	(INR)	73.779 ～ 80.064	79.884	80.5	78.8	76.2	75.3	74.4
インドネシアルピア	(IDR)	14250 ～ 15075	14823	15200	15000	14900	14650	14450
韓国ウォン	(KRW)	1185.81 ～ 1326.72	1335.45	1310	1320	1320	1330	1320
マレーシアリング	(MYR)	4.1645 ～ 4.4620	4.4715	4.55	4.50	4.45	4.38	4.30
フィリピンペソ	(PHP)	50.753 ～ 56.582	56.043	56.2	55.7	55.0	54.3	53.7
シンガポールドル	(SGD)	1.3408 ～ 1.4097	1.3893	1.41	1.39	1.37	1.35	1.35
台湾ドル	(TWD)	27.496 ～ 29.989	30.202	29.9	30.0	30.1	30.2	30.0
タイバーツ	(THB)	32.09 ～ 36.95	35.83	36.2	35.2	34.4	34.2	33.8
ベトナムドン	(VND)	22627 ～ 23441	23428	23440	23200	23100	23000	22900
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	51.1250 ～ 177.2606	59.6489	58.0	62.0	65.0	67.0	70.0
南アフリカランド	(ZAR)	14.4025 ～ 17.3060	16.7350	16.0	15.0	14.0	14.5	15.5
トルコリラ	(TRY)	12.8029 ～ 17.9847	18.1740	18.0	18.5	19.0	19.5	18.0
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	4.5853 ～ 5.7239	5.1098	5.40	5.30	5.20	5.05	4.95
メキシコペソ	(MXN)	19.4136 ～ 21.4676	19.9336	20.7	20.8	20.8	20.9	21.0
対円								
エマージングアジア								
中国人民元	(CNY)	17.867 ～ 20.665	19.959	20.30	20.74	20.37	20.00	19.85
香港ドル	(HKD)	14.576 ～ 17.757	17.400	17.46	17.85	17.60	17.37	17.26
インドルピー	(INR)	1.491 ～ 1.747	1.712	1.70	1.78	1.81	1.81	1.81
インドネシアルピア	(100IDR)	0.792 ～ 0.928	0.921	0.901	0.933	0.926	0.928	0.934
韓国ウォン	(100KRW)	9.322 ～ 10.729	10.223	10.46	10.61	10.45	10.23	10.23
マレーシアリング	(MYR)	27.109 ～ 31.362	30.512	30.11	31.11	31.01	31.05	31.40
フィリピンペソ	(PHP)	2.202 ～ 2.539	2.435	2.44	2.51	2.51	2.50	2.51
シンガポールドル	(SGD)	84.19 ～ 99.70	98.28	97.03	100.86	100.44	100.44	100.30
台湾ドル	(TWD)	4.060 ～ 4.660	4.518	4.58	4.67	4.58	4.50	4.50
タイバーツ	(THB)	3.416 ～ 3.899	3.809	3.78	3.98	4.01	3.98	3.99
ベトナムドン	(10000VND)	0.5005 ～ 0.5952	0.5826	0.58	0.60	0.60	0.59	0.59
中東欧・アフリカ								
ロシアルーブル	(RUB)	0.680 ～ 2.667	2.260	2.36	2.26	2.12	2.03	1.93
南アフリカランド	(ZAR)	7.190 ～ 8.813	8.157	8.56	9.33	9.86	9.38	8.71
トルコリラ	(TRY)	7.381 ～ 9.008	7.500	7.61	7.57	7.26	6.97	7.50
ラテンアメリカ								
ブラジルレアル	(BRL)	20.216 ～ 27.844	26.699	25.37	26.42	26.54	26.93	27.27
メキシコペソ	(MXN)	5.377 ～ 6.868	6.849	6.62	6.75	6.63	6.51	6.43

注: 1. 実績の欄は 2022 年 7 月 29 日まで。SPOT は 8 月 26 日の 8 時 05 分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。